

第4弾連載コラム（第1話）

愛好者の定着の心得



相談役 辻田 満

1. はじめに

相談役に就任してから会報に連載コラムを頼まれ始められて今回で第4弾目の連載コラムです。第4弾は4話構成で「愛好者の定着の心得」について書いてみたいと思います。今回は第1話として「ビギナークラスの実態」と「ダンス継続の秘訣」です。

2. ビギナークラスの実態

愛好者を増やすにはビギナークラスの開催の他に手段はありません。どこのクラブでも年に1回ビギナークラスを開催していますが、このビギナークラスをいかに効率的に開催するかは、やはりデータに基づいた分析が必要です。過去、日本スクエアダンス協会で行った調査によりますと「SDを知ったきっかけは？」で最も多かったのはやはり「友達に誘われた」で、全体の60%を占めておりました。さて、いよいよお友達に誘われてビギナー会場にきました。そこで、受講した理由は何だったのでしょうか。「試しに踊って見たのが楽しかった」が最も大きい理由で全体の15%程度ありました。また、「皆が親切にしてくれた」、「クラブの雰囲気がよかった」も見逃せない理由でこの両者の理由を先ほどの15%に加えると全体の25%になります。初心者講習会に参加して実際に卒業できる割合はほぼ75%がここ数年の平均のようです。越谷HHでもここ数年はビギナークラスには10人程度参加しますが7人～8人の卒業となっています。そして、卒業すればほぼそのまま会員として活動を続けています。もう一度会員の皆様がこの「ビギナークラスの実態」を再認識していただいて卒業して会員になっていただける割合を高めて行きましょう。

3. ダンス継続の秘訣

次に会員に対しまして「ダンスを続けている理由は？」を聞いて見ますと圧倒的に上位に来ている理由は「ダンスが楽しい」です。そして、「健康に良い」、「例会やパーティーで友達と会える」が続き、この3つの理由で全体の75%の理由となっています。そして、「やめることを思いとどまった理由」は全体の50%の回答が「ダンスが好きだから」でした。続けているとこのスクエアダンスが心から好きになってしまうようです。次に続く理由は「会の仲間励まされた」、「友達と離れられなか

った」が続き、この3つの理由で全体の何と80%となります。スクエアダンスは音楽に乗って踊る友情の踊りと言われる所以が良く理解できます。反面、「SDをやめたいと思った理由」は何なのでしょう。これに関する理由は数多く列挙されています。「ダンスが難しく付いていけない」「しばらく例会を休んだため行き辛くなった」、「仕事（家事）が多忙になった」、等々が上げられます。スクエアダンスをやめる理由はどこにでも転がっているということです。すなわち、やめた後で自分が第三者に説明する理由がいくらでも付いてくるようなものです。越谷HHではここ最近、毎年7～8名の新しい仲間が会員として登録し活動していますが、残念にも毎年10名近い仲間が休会や退会しています。もう一度会員の皆様がこの「ダンス継続の秘訣」を再認識していただいで出来る限り休会や退会の会員が出ないようにして行きましょう。

(第2話に続く)

第4弾連載コラム（第2話）

愛好者の定着の心得



相談役 辻田 満

1. はじめに

相談役に就任してから会報に連載コラムを頼まれ始められて今回で第4弾目の連載コラムです。第4弾は4話構成で「愛好者の定着の心得」について書きます。今回は第2話として「会員定着に成果があった事例」です。

2. 会員定着に成果があった事例

さて、いよいよ会員定着に成果があった理由をデータにも基づいてご紹介しましょう。越谷HHではこの事例のうち幾つの事柄を実施しているのでしょうか。じっくりと読んでみると中々良いことが書かれています。良いと思われる事例は躊躇なく越谷HHでも試みたいものです。

(1) .事例その1

- ・会員が誘ったビギナーは定着する。
- ・ダンスレベルよりも楽しい例会を心掛ける。
- ・スクエア10則を守るよう話しあう。
- ・ダンス以外で話し合い。
- ・上手にゆかなかった日は励ましの声を掛けるようにしている。
- ・看病、介護等で休会中の会員にも連絡(ハガキ・電話)をして声掛けをした。
- ・コーラーのやさしさとサークル全体の明るさ。
- ・病気や介護の休みから復帰したときの歓迎。
- ・身内のみのやさしいミニパーティーの開催

(2) .事例その2

- ・会員の知人、友人、同僚、家族等はビギナー終了後も人間関係が良く定着率が良い。
- ・例会プログラムについて各層の意見を聞き、活かせるよう配慮。
- ・コミュニケーション(飲み会など)をとる。
- ・卒業生をフォローする委員会の活動。
- ・クラブ方針として会員間のコミュニケーションに注意をしている。

- ・皆で声をかける。
- ・上手な人達がパートナーになる。
- ・特別踊り込み会で自信をつける。
- ・会報を出し、会場情報とコミュニケーションを図る。

(3) . 事例その3

- ・ミーティングで会の運営方針をしっかりと伝達する。
- ・レベルに付いて行けないようなコールはしない。
- ・友人を会に誘うと長続きする。
- ・誘い合ってパーティーに参加。
- ・同期生の結びつきを強くするための仕掛け。
- ・役員会を定例に開催し、その結果を会員全員が判るように報告する。
- ・会員同士の間人間関係が良好時

(4.) . 事例その4

- ・親睦会の早期開催。
- ・強制をあまりしない事。また、色々とみんなで協力しあってやる事。
- ・負担は平等を原則として各人に何らかの役割を与える
- ・欠席の理由を追求しない（信頼感）。
- ・お茶・おしゃべりタイムが楽しく みんな 仲良しである。
- ・例会は練習の場であるから、壊す事をおそれない。
- ・合宿研修でコミュニケーション向上のためのワークショップを行った。
- ・例会以外でのコミュニケーション。
- ・例会後、皆でお茶を飲み話をする

(5) . 事例その5.

- ・合宿（1泊）で ダンス講習と親睦をはかる。
- ・長期欠席者に連絡をとる。
- ・親睦会・ビギナー歓迎会、卒業パーティー、DoSaDo パーティー、踊り込み補習。
- ・覚える速さを他の人と比べない（マイペース）。
- ・毎年B, MS, Pの復習ができるので心配しないこと。
- ・初心者講習中および卒業後に世話役をつける。
- ・同期で親睦を図り食事や旅行を楽しむ。
- ・会員になる前に会の方針を話す。
- ・役割を与える。
- ・ビギナーの定着を第1に、例会プログラムを工夫する。

(第3話に続く)

第4弾連載コラム（第3話）

愛好者の定着の心得



相談役 辻田 満

1. はじめに

相談役に就任してから会報に連載コラムを頼まれ始められて今回で第4弾目の連載コラムです。第4弾は4話構成で「愛好者の定着の心得」について書きます。今回は第3話として「会員定着の心得」です。

2. 会員定着の心得

会員定着に成果のあった理由を受けて私なりの会員定着の心得をまとめてみました。

(1) 心得その1

クラブ運営で最も大切なのは会員同士の意思疎通です。退会の原因となるのは会における「もめごと」が多いようです。「ものごと」の多くはこの意思疎通の不足に起因しています。すなわち、意思疎通は会の大きな資産と言えます。例会でのスナックタイムも単にお茶の時間ではありません。会員同士がお互いに意思疎通を図ることが出来る貴重な時間です。踊りを離れての様々な行事も意思疎通の絶好の機会です。そして、会報発行もまたクラブ員同士の意思疎通を図る大切な媒体です

(2) 心得その2

だれがリーダーとなってもクラブ運営が上手くできるようにその仕組みを仕込んでおくことが重要です。その為には、役員はクラブのベテラン会員がするという慣例を作らないことが必要です。ビギナークラスの開催は会員の増加もさることながら、むしろ会の活性化の原動力として極めて重要なものとの認識が必要です。すなわち、新しい仲間が私達にとって最も重要な人なのです。

(3) 心得その3

究極的に、人を動かすものは個人の自発性です。そして、その自発性を生み出すものは組織の使命・存在意義（ミッション）と将来像（ビジョン）への共感なのです。会員達がクラブに対して夢を持つことが大切です。夢は周囲に感染します。多くの会員が夢を共有すると大きなパワーとなります。

3. まとめ

第1話～第3話と「愛好者の定着の心得」と題してお話してきましたが、振り返って内容をレビューしてみると以下の①～⑥に行き着きました。一つ一つの心得は決して難しいものではありません。会員お一人お一人の心構えの積み重ねが愛好者を増やしそして定着させるのですね！

- ①「スクエアダンスを知ったきっかけは？」で最も多かったのはやはり「友達に誘われた」です。
- ②ビギナークラスを受講した理由は「試しに踊って見たのが楽しかった」が最も大きい理由です。また、「皆が親切にしてくれた」、「クラブの雰囲気がよかった」も見逃せない理由です。
- ③会員が「ダンスを続けている理由は？」を聞いて見ますと圧倒的に上位に来ている理由は「ダンスが楽しい」です。次に続く理由は「会の仲間に励まされた」、「友達と離れられなかった」が続きます。
- ④ダンスはあくまでも友情を楽しむための手段。クラブ内外の良好な人間関係の構築こそ最も重要なこと。
- ⑤. 新しい仲間こそ、私達の宝物です。
- ⑥. コミュニケーションはまずお互いに声かけからが基本です。

(第4話に続く)

第4弾連載コラム（第4話）

愛好者の定着の心得



相談役 辻田 満

1. はじめに

相談役に就任してから会報に連載コラムを頼まれ始められて今回で第4弾目の連載コラムです。第4弾は4話構成で「愛好者の定着の心得」について書きます。今回は第4話（最終話）として「青年SD愛好者」について書いてみたいと思います。これが本連載の最終話となります。ご愛読ありがとうございました。

2. 青年SD愛好者の現状

2004年にS協では広くSD愛好者の実態調査を行っています。この時の調査結果の内20歳～49歳の調査結果を2014年に実施した調査結果と比較してみます。その結果、明らかになったことはまさに「青年SD愛好者はすでにレッドリスト（絶滅の恐れがあるリスト）入りの危機」であるということです。

【20～49歳の愛好者数の伸び悩み】

S協では、2004年に広くSD愛好者の実態調査を行いました。この時の調査では、20歳～49歳の愛好者（青年愛好者）数は870人で、当時の愛好者総数約9,800人の8.9%を占めていました。2014年の調査では、青年愛好者数は302人で、愛好者総数約14,700人の2.1%にとどまり、この比率は、10年間で1/4以下になっています。

2004年の青年愛好者の年齢分布の内訳は、39歳までが303人、40歳から49歳までが567人でした。その10年後のいま、当時40～49歳までの愛好者は今回の調査対象から外れ、50歳以上になっています。つまり、2004年に40歳未満だった愛好者（303人）が、10年の時を経てそのままの数で継続しているか、一部入れ替わっているだけで、新たにSDを始めた人が少ないことがわかります。

【50歳以上の愛好者の増加】

SD愛好者数の伸び率は、近年鈍化の兆しが見えるものの、この10年間で150%に成長していま

す。特に、50歳以上の愛好者数をみると、2004年には約9,100人でしたが、今回の調査から推計すると、2014年には約13,100人になり、4,000人増えています。2004年当時40～49歳だった愛好者（567人）がそのまま継続しているとしても、この10年間で、少なくとも3,500人位の人がSDを始めたこととなります。この数字から、高齢の愛好者の割合が増え、SD愛好者の年齢構成が高くなっていることが伺われ、これは実際に活動している愛好者の実態から容易に想像できます。

高齢者の趣味としてSDを楽しむ人が増え、それにより元気と生きがいのある高齢社会の実現に、SDが大きな役割を果たしていると言えそうで、S協としても、高齢者にやさしいSDの普及に注力しているところです。

【SDの将来に向けて】

一方、青年SD愛好者はこの10年で560人以上も減少し、なおかつ、10年前の全体の愛好者の構成比率8.9%から2.1%まで減少しています。これはすでに青年SD愛好者がレッドリスト（絶滅の恐れがあるリスト）に入ってしまったと断言して間違いがありません。

この素晴らしい「スクエアダンス」というレクリエーションを広く社会に広めていくため、私たちは、SDの次期を担う青年SD愛好者の育成に効果的な方策を打つことが、いま求められているのではないのでしょうか。

※本原稿は筆者がS協の普及タスクチームのメンバーとして2014年5月号のS協機関紙（NO.256）に投稿したものを一部加筆し掲載しています。

（連載おわり）